

一休和尚は、①いとけなきときより常の人には変はりたまひて、②利根發明なりけるとかや。師の坊をば養叟和尚と申しけり。こびたる檀那ありて、常に來たりて和尚に參学などしはべりては、一休の發明なるを心地よく思ひて、折々はたはぶれを言ひて、問答などしけり。

あるとき、かの檀那、皮袴を着て③來たりけるを、一休、門外にてちらと見、内へ走り入りて、へぎに書きつけ、立てられ④けるは、
この寺の内へ、皮のたぐひ、固く禁制なり。もし皮のもの入るときは、その身に⑤必ずばち当たるべし。

Aと書いておかれけり。

かの檀那これを見て、「皮のたぐひにばち当たるならば、このお寺の太鼓は何と⑥したまふぞ。」と申しけり。

一休聞きたまひ、「さればとよ、夜昼三度づつばち当たるあひだ、その方へも太鼓のばちを当て申さむ。皮の袴着られけるほどに。」Bとおどけられけり。

問一 傍線部①～⑥の品詞名を漢字で答えなさい。

問二 傍線部A」と書いておかれけり」・B「とおどけられけり」はそれぞれ何語からなるか。漢数字で答えなさい。

【解答欄】

問一

④	①
⑤	②
⑥	③

問二

B	A
語	語

問一
【解答】

④	①
助動詞	形容詞
⑤	②
副詞	形容動詞
⑥	③
動詞	動詞

問二

B	A
四語	六語